

下山小学校

コミュニティ・スクールだより

令和5年度 第3号

学校運営協議会 下山小学校・中学校合同号

11月22日（水）下山小学校体育館において、今年度3回目となる学校運営協議会を「令和5年度学校運営協議会合同会議・下山未来創造教育会議」として開催しました。



第1部は授業参観が行われ、下山小中学校学校運営協議会委員と下山中学校領域代表教職員の皆様に小学生の授業の様子を見ていただきました。

第2部の全体会には下山小学校職員も加わり、総勢61名での会議となりました。



小学校の坂内校長の開会の挨拶では、今年度は下山中学校区の課題である「不登校について」熟議をしていただきたい。学校はもちろん、地域の方から関わっていただきながら子どもたちに寄り添い、居場所のようなものを作れないかなど、ご参集の皆様のそれぞれの立場からアイデアやご助言を頂けると有難い、との話がありました。



協議に入り、不登校の現状について、下山小学校生活指導主任、下山中学校不登校担当、生徒指導担当の先生より各校の説明報告がありました。

その後、「不登校について」問題解決のためのファシリテーションを10のグループに分かれて行いました。グループごとに「どこに課題があるのか」と「その課題解決のためにできる（できそうな）こと」を出し合い、活発な議論が行われました。

ファシリテーションの様子



ファシリテーションの後、3つのグループから発表が行われました。

- ・学校だけでなく、家庭そして大人との関わりで話の出来る場が作れるとよい。
- ・ICTの活用で、ZOOMなどの方法を使って顔を見ることが出来ているのでそういったことも活用していきたい。
- ・関わり、環境、ゆとりなどの影響があるのではないかな。
- ・本人、保護者、担任だけで抱え込まず、見守ったり、関わったり、聴いてあげたり、繋いだり、様々な役割分担の中でたくさんの人が関わって子どもたちをケアできるとよい。
- ・家庭、学校、地域でのそれぞれの役割分担で子どもとの関わりを持てるとよい。



閉会の挨拶では、中学校の荒木校長先生から、下山小中学校の不登校の割合は全国平均より低い状況、少ないから安心ということはなく、1人でも苦しんでいる児童、生徒がいれば寄り添って、何とか支援したいという思いがある。今回の話し合いが、情報共有の大切さや小、中学校での子どもとの関わり方といった部分を作っていく第一歩になったと思う。学校に来ている来ていないに関わらず、その子のその時の思い、悩みに寄り添える、そういう下山地区の学校でありたい。と話がありました。

お問い合わせ先	下山小学校	273-0069	担当	CS 事務員	津野 香
	下山中学校	272-0264	担当	CS 事務員	松本 晶子